

『C型肝炎ウイルス駆除後の肝細胞癌発生』

肝臓川柳



『見落とすな 駆除後の発がん 苦情のもと』

(字余り・・・)

C型肝炎に対する新規薬剤は続々と登場し、

C型肝炎駆除率は90%（さらにそれ以上）となる日が近いですが、

ウイルス駆除後の問題も、すでに以前から論じられています。

たとえウイルスがいなくなっても、肝癌発生は一定の率で見られます。

統計では、駆除後10年で6%、年間0.6%の発生率と言われており、

肝線維化F1症例程度のリスクです。

特に注意を要する例は

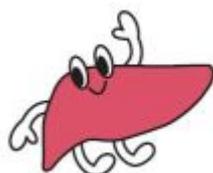
- 高齢者
- 血小板低下（線維化進展）例
- 男性
- AFP 高値例
- 耐糖能異常例
- 飲酒や脂肪肝などのHCV以外の肝障害が続く例です。

またウイルス駆除により肝線維化が良くなる例では発生リスクが少ないのですが、

線維化が良くならない例があり、とくに発生リスクが高いようです。

C型肝炎ウイルス駆除されたからといって、全く大丈夫ではなく、

定期的な画像検査、血液検査フォローがずっと必要です。



これだけ覚えておけば損はない！

今回のポイント

ウイルス駆除後の問題として、駆除後も肝癌発生は一定の率で見られ、

年間0.6%の発生率と統計上でしています。

ウイルス駆除後も線維化が良くならない例が特に発生リスクが高いようです。

駆除後も定期的なフォローが必要です。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)